

古今集 新古今集 撰進節目の年を迎え 日本の短詩の軌跡を辿る 第67回MIKコンサート

# 日本の短詩

短歌と俳句

## をうたう

独唱 小針絢子 西田ちづ子 堀野直美

合唱 クール・ルシャン 指揮 大場点  
安積フィメール・コール東京 指揮 渡部康夫  
あんさんぶる”のぞみ” 指揮 吉田公子

監修 神作 光一  
作曲 伊能美智子

ピアノ 伊能美智子 榎谷礼子 庄司紀子

古今集より 天の原ふけまけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも 家持仲綱  
花の色はうつりにけりなほらに雲が青世にふるながめせし間に 小野小町  
天つ帆影の透ひ暮夜を閉りよと女の笑はば 賀の心 源正盛綱  
千早ふる神代も聞かず鳥羽川からくぬらんに水くはるとは 在原業平前節  
東方の舟のどけき春の日にしづ心なく鳥の啼るらむ 紀友則  
人はいさむも物らずふるそとは花ぞ昔の香にほほひける 紀貫之  
秋葉ぬとほにばさやかに夏えぬとも風物昔こそぞどもかれぬる 藤原兼行  
新古今集より 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣下すてふ天の香具山 持統天皇  
自然のとも渡る舟人か写したえ行舟も知らぬ旅の道かな 望月知成  
遊り遊びて見しやそれとも分ぬ間に雲隠れにし夜半の月かな 雲式部  
秋風にたなびく雲の懸入間より流れ出づる其の影のまやけさ 在原大夫朝輔  
村所の霞もまたひめ嶺の雲に懸立ちよぼる秋の夕暮 歌集後集

江戸より現代 雲のたなびく雲の懸入間より流れ出づる其の影のまやけさ 歌集後集  
に到る俳句 雲のたなびく雲の懸入間より流れ出づる其の影のまやけさ 歌集後集  
おそるぬる花葉に春つて雨降 夏目漱石  
分け入っても分け入っても青い山 棟前山嵐火  
青峰おのれもべん半雲わたてか 芥川龍之介  
春草やも春雲の出来上る 中村宮石海門  
春一番写雲の跡で吹かかれり 山下柳菫三  
阿保園に雲はれば生かしの感のせり 鮎村研三

現代短歌 雲葉のあかりに霞も桜木はあえかに染れる花野りもめて 上村文  
かすかなる雲影け水の音聞こゆ水流れ日の影す静と行くに 神作光一  
文はもろこの世にいなと知っててもつながらる雲がする雲影短歌 学生百人一首  
かみと書いてスバルを眺めれば後半部分が静になる 学生百人一首  
眠いとま目を引っぱれば顔印け授業中には高見盛 学生百人一首

注：自由は当日変更になることがあります

眠いとま目を引っぱれば顔印け  
授業中には高見盛

春過ぎて夏来にけらし白妙の  
衣下すてふ天の香具山  
分け入っても分け入っても青い山  
古池や蛙飛び込む水の音

05年6月11日(土)開演14:00 開場13:30  
市川市文化会館小ホール JR総武線「本八幡」南口6分

主催・問合せ:MIK Tel:047(334)6585

共催:(財)市川市文化振興財団 Tel:047(379)5111

後援:市川俳句協会 沖俳句会 花賞短歌会 小倉百人一首友の会

入場料:¥1,500.(当日¥2,000.) 全席自由

チケット申込先:市川市文化会館プレイガイド/Tel:047(379)5111 MIK/Tel:047(334)6585



地下鉄新宿線本八幡/京成やわた駅方面